

## いかにゴミの無害化を成し遂げるか

北京郵電大学学生代表

見学日時：2013年6月5日（水） 09:30－11:30

見学場所：新江東清掃工場

### 見学概要

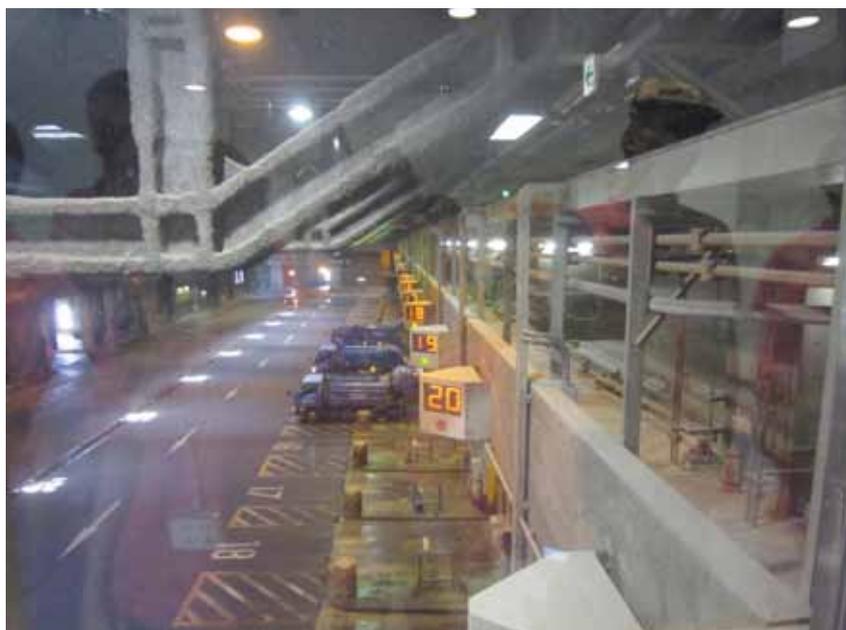
日本の金融業、重工業、医療業界等を見学した後、私たちは東京都の新江東清掃工場、つまり私たちの言うところのゴミ処理工場を訪れた。日本は資源が決して豊富ではない島国にありながら急速に発展し先進国となりえたことは、日本のゴミ分類と処理の技術に密接に関わっている。世界の中でも日本のゴミ分類意識とゴミ処理技術は一、二を争っているため、私たちは日本のゴミ処理工場に非常に興味を感じていた。

清掃工場到着後、私たちは先ずゴミ処理は減量化、再利用、リサイクルの三原則に従って行われているという紹介映像を観賞した。そして清掃工場全体のゴミ処理工程が、ゴミ運搬車によりゴミがリサイクル可能ゴミとリサイクル不能ゴミの二種類に分類され、リサイクル不能ゴミは、さらに可燃ゴミと不燃ゴミに分けられることを知った。この工場では、主に可燃ゴミを処理しており、ゴミ運搬車によりゴミが清掃工場に運ばれた後、ゴミピットに入れられ、鉄等の一部の金属は磁石を使用し回収され再利用されている。

日本において可燃ゴミは一般的に全て焼却される。それは、埋立可能な土地が非常に少ないからである。不燃ゴミは、先ず粉砕機で粉砕される。ただひたすら焼却しても燃焼不十分になってしまうので、先ず、より燃焼しやすい様にマシンアームで攪拌を行いゴミを均等にするのである。十分に攪拌した後、ゴミの焼却を行う。燃焼によって発生した熱エネルギーは、工場内の火力発電装置に送られており、熱エネルギーの十分な利用がなされている。焼却時に発生する気体は、クリーンなものに処理された後、大気中に放出される。ゴミ焼却後の特殊処理を経ることによって発生するスラグは、道路の舗装に使用することができる。焼却炉は一日24時間フル稼働しており、毎年2回メンテナンスが行われる。

焼却後のアッシュはさらに攪拌処理され、最終的に海の埋め立てに使用されるか、或いは、ゴミ処理工場がすでに線引きしている海中に埋立てられ、アッシュによる汚染を防いでいる。灰は一般的に海の埋め立てに使用される。埋め立ての前に、埋め立てるエリアを隔離し、その後土と灰を海底に投下し圧力をかけて固めるのである。

日本全体で、1200カ所のゴミ処理工場がある。





## 感想

現代化された大都市、ひいては現代化された国は、必然的に毎日沢山のゴミを生み出している。これらはゴミではあるが、ある種の資源でもある。地球上の資源の大部分は再生不可能であり、そのためいかにしてゴミ処理を行うか、これは先進国家が解決しなければならない難題である。

日本は資源の欠乏が中国よりひどい状態である。そのためその危機意識はすでに一人一人の心に深く植えつけられており、彼らは全ての資源をとっても大切にしている。よってゴミの分類と処理において、日本は世界の最前線をいく国となり、このことは彼らがなぜ急速に発展したのかの理由の一つである。

しかし、日本も発展しながら整備してきたわけではない。彼らも同様に重度の汚染の時期を経て、後に政府が大々的に環境の整備を行うようになり、ゴミ処理についても重視するようになったのである。こうしてはじめて今日のような美しい日本の環境が存在するのである。我が国は現段階においては、汚染してから整備するということがすでに許されない状況になっている。或いは一旦汚染してしまったら整備のしようがない状況であるとも言える。よって私たちはゴミ処理問題を今まで以上に重視しなければならないのである。

その一方で、ゴミ処理の基本はゴミの分類であり、大学生である自分がゴミの具体的な分類方法を知らないことを恥ずかしく思っている。中国の主要メディアと主要の教育システムの中では、恐らくゴミ分類に関する教育がなされていないのであろう。このことも、皆のゴミ分類への意識の欠如を招いている。

日本では、一カ所のゴミ捨て場に3～4個のゴミ箱があり、ガラス瓶、ペットボトル、空き缶、生ゴミ等々に分類されている。しかし中国の大部分の場所には、緑のゴミ箱が一つ置いてあるだけで、わずかなゴミ分類のある場所でも、リサイクル可能とリサイクル不能の二つに分けられているだけで、私たちもよく何がリサイクル可能で、何が不能なのか区別が付かなくなっている。

帰国当日私たちが空港に降り立った際、突然、ゴミを捨てるのがそんなに面倒でなくなっていることに気がついた。逆に、私たちがゴミを分類してゴミ箱に捨てようと思っても、そのようなゴミ箱が提供されていないのである。よって、学校教育にせよ主要メディアの宣伝にせよ、ゴミ分類への意識とゴミ分類の基礎知識の宣伝を始めるべきで、それによりはじめてゴミの無害化処理を行うことができ、ゴミのもたらず汚染を最大限抑制することができるのである。